

「インクルーシブな学校運営」 通信 第7号

カリキュラム・マネージャー

作業体験や意見交換を通して交流 =第2学年「交流学习」=

10月7日（火）、第2学年の学校間交流「交流学习」が中高養で実施されました。

昨年度、相手校の動画を視聴したり、自己紹介動画を作成するなど事前学習の内容が改善されましたが、本年度はさらに、生徒のプロフィールを交換するなどの工夫が加えられました。

交流の前半は、普通科（コーヒー焙煎）農業科（リース作り）木工科（箸、木べらづくり）工業科（型枠掃除）窯業科（どんぶり作り）家庭総合科（ガーゼハンカチ作り）に分かれて作業体験が行われ、中高養の生徒がリードする形で進められました。



開会式では多少硬さがみられた生徒たちも作業体験を通して打ち解け、後半の意見交流会では、以前からの友達のようにリラックスして会話を楽しんでいました。



＊ ＊ 絆を深めた両校生徒 ＊ ＊

● 群馬県教育委員会が「モデル事業」視察

教育次長はじめ5名の方が来校し「交流学习」を参観しました。群馬県は県全体でインクルーシブ教育を推進し「モデル事業」も受託しています。両校校長、教育局教育支援課長も参加し、成果や課題について情報交換しました。



全校集会で食品衛生責任者講習修了証を伝達 中高養

10月9日（木）、食品衛生責任者講習会に参加し、食品衛生責任者としての資格を得た2名の生徒の講習修了証の伝達式が全校集会の中で行われました。

この講習会は、更農の授業の一環として毎年実施されてきたものですが、「モデル事業」における「連携校の教育資源を活用した教育活動」として、中高養生徒の参加が実現したものです。（今年度から隔年実施）



修了証を受け取った生徒に対し、全校生徒から大きな拍手が送られていました。

自己表現が苦手な生徒への授業の配慮や工夫 =第3回共に学ぶ会=

10月8日（水）、「自己表現が苦手な生徒への授業の配慮や工夫」をテーマに第3回「共に学ぶ会」が行われました。両校で会議や評価業務と重なりましたが、更農側は校長先生も含め4名、中高養側は6名の参加がありました。

Coから示されたのは「人とかがわりたいという気持ちはあるものの、スムーズなやりとりに課題があり、もやもやが溜まりやすい」という生徒の事例でした。更農でも同じ傾向の生徒がおり、その生徒を想定しながら授業でできる工夫について話合いました。

次回のテーマは中高養の先生方が普段感じている課題をとりあげ、更農での教科の取組を紹介してもらうことになっています。

	今後の予定	※15:45～16:35
第4回	10月23日（木）	「学力差に対応するための授業の工夫」
第5回	11月20日（木）	「問題行動の背景や当該生徒の心情等の把握」
第6回	1月19日（月）	「マイルールにこだわる生徒の事例と対応」
第7回	2月 5日（木）	「障がいのある生徒の進路について」
第8回	3月16日（月）	「愛着障害について」

第63回日本特殊教育学会（水戸市）で話題提供

9月15日（月）、「インクルーシブな学校運営モデル校の挑戦」と題した「自主シンポジウム」において、「モデル事業」を受託している横浜市教委、神奈川県秦野市教委、宮崎県立小林こすもす支援学校と共に、これまでの取組を発表しました。

本校の発表に対して参加者から、「高校の積極的な参加が重要であると感じた。高校と連携するために特別支援学校が果たすべき役割をどのように思われるか？」という趣旨の質問がありました。

これに対し、発表者の阿部教諭は「両校の教育課程や特徴を理解し合って、互いが求める場面を充実させていくことが必要。一方的ではなく互いに協力できる関係性が柔軟な取組を可能にしていると感じている。特別支援学校のみが役割を果たすのではなく、互いに高め合い尊重し合えるよう進めていきたい。」と所感を述べたとのこと。

